

学校番号	23	学校名	掛川特別支援学校御前崎分校	校長名	山崎 かおる
------	----	-----	---------------	-----	--------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア 専門性	（ア）教育的ニーズの的確な実態把握と目標の達成 （イ）つながりのある支援と指導の充実	・「学習の個性化・指導の個別化による個別最適な学習に積極的に取り組んだ」と答える教職員 100%	A 55.6% B 44.4%	A	・年間指導計画の評価の視点と検討日を明確に示すことにより、実態や実践に即して目標や学習内容を組織的に改善することができた。 ・作成マニュアルの改善と検討目的の共有を引き続き行っていく。
		・「生徒の身に付けた知識や経験を社会で生かすことができるような授業や指導を実施した」と答える教職員 90%以上	A 41.2% B 52.9% C 5.9%	B	・作業班や学年集団で授業を検討することにより、生徒の目標や課題を共有することができた。 ・効果的な学習グループの形態を検討するために、責任者を指名し、議論の場を設定する。
		・「障害による学習上又は生活上の困難さを改善・克服する視点でICTや教材を活用することができた」と答える教職員 80%	A 44.4% B 55.6%	B	・AIの有効な使い方について研修課と連携して研修会を実施した。また生徒の思考を整理する視点から授業内での使用方法を学年会で検討をした。 ・ICTの活用方法について研修していく必要がある。
イ 安全・安心	（ア）人権に配慮した言動や行動の徹底	・「生徒の特性を理解し、状況の変化に対応できるように個別に支援ができた」と答える教職員 100%（自立活動）	A 27.8% B 72.2%	B	・生徒の実態や個々に合わせて記入内容を変更しながら健康チェック表を作成し、心身の状態に合わせた支援をすることができた。活用方法については課題を残した。 ・学習指導要領（自立活動）の読み合わせ等を学習会に取り入れ、解釈の共有を図る。
		・相手を尊重し、学校生活の決まりを守って生活することができたと答える生徒 90%以上（いじめゼロ生徒会活動）	A 65.8% B 31.6% C 2.6%	A	・学部集会による決まりの確認やOUDの掲示物など、視覚から意識へと変換できた。 ・社会経験の少なさや認知特性からの言葉の受け取り方や理解の程度により、「悪口を言われた。」などの言葉をアンケートに記載する生徒がいた。 （問題解決済み）

様式第3号

	(イ)命を守る、体制の整備と緊急時対応の行動力強化	<ul style="list-style-type: none"> ・「緊急時の自己の役割を認識し、適切な行動ができる」と答える教職員 100% 	A 50% B 50%	B	<ul style="list-style-type: none"> ・防災学習や研修等の際に危機管理マニュアルの掲載部分を提示したため、活用頻度を高めることができた。 ・緊急時には各人の判断が求められるため、日常的な危機対応力の育成方法を模索していく。
		<ul style="list-style-type: none"> ・「想定される危険を回避するために家庭でも話し合っている」と答える生徒・保護者 80%以上 	(生徒) (保護者) A 7.9% 32% B 31.6% 54% C 42.1% 14% D 18.4%	C	<ul style="list-style-type: none"> ・防災だよりの発行及びホームページへの掲載などを通じて家庭との連携を図ることができた。 ・通学途上での斜め横断による接触事故が1件発生した。事後指導として保護者の見届けを3日間依頼した。
ウ 連 携	(ア)よりよく生きるための関係機関等との協働強化	<ul style="list-style-type: none"> ・「保護者との指導内容の共有、関係機関との情報交換、必要に応じた支援会議など必要に応じた外部との連携を積極的に行った」と答える教職員 90% 	A 72.2% B 27.8%	A	<ul style="list-style-type: none"> ・進路担当、コーディネーター、学年が連携を深め、関係機関との細かな連絡調整をしたために卒業学年の進路決定へとつながった。 ・実習前に訪問時の共通事項を全職員で再度確認をしておきたい。
	(イ)地域資源(人・もの・こと)への深い理解とそれを活かした実践や発信	<ul style="list-style-type: none"> ・「販売会や地域作業を生徒の夢の実現に向けた目標を達成することができた」と答える教職員 100% 	A 47.1% B 52.9%	B	<ul style="list-style-type: none"> ・夢の実現シート(キャリアサポート)を活用することにより、生徒が卒業後に必要な力と現在取り組む課題を考え、日々生活することへとつながった。 ・地域作業の目的の共有を引き続き図っていききたい。
		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒及び生徒の学習活動、作業製品等を通して池新田高校や地域の方が「分校及び生徒の理解につながった」と答える教職員・外部評価 100% 	A 83.3% B 16.7%	A	<ul style="list-style-type: none"> ・意義やマナーなどを事前に学習したことにより、生徒が意図をもって動くことができた。他者評価では具体的な褒め言葉が多かった。 ・池高アンケートでは、生徒及び教職員ともに分校生への理解を示してくれている。
エ チ ム	(ア)働きがいのある職場の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・「担当業務を通じて、満足感や達成感、有用感を得ることができた」と答える教職員 100% *業務改善に関しては、随時、学年主任者会で話し合う。 	A 44.4% B 55.6%	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校全体での検討や共有をし、教育活動を進めていることが目標達成へとつながった。 ・全体の業務改善として、火・木曜日の朝の打ち合わせを必要に応じて行うように変更し、放課後の下校バス待機の生徒指導をなくした。